

はの はつみ
羽野 初美さん(57歳)

営農地:朝倉市大庭
主な農産物:博多万能ネギ



農業の中にある楽しみを仕事の糧に

● 就農のきっかけ

夫、そして農業と結婚した私

会社の事務員として仕事をしていた羽野さん、結婚を機に退職し、家業のネギ栽培を手伝いました。結婚当時は夫の両親と4人家族で、調製作業等を手伝う仕事をしていました。

三人の男子を授かり、義母に育児を手伝ってもらいながら、少しずつネギ栽培の仕事に関わってきました。しかし、両親が高齢であったため、あっという間に夫の片腕として農業を担うことになり、夫婦で頑張りながら徐々に規模拡大も図ってきました。「近所の方々はガマダシ者(働き者)が多く、朝早くから収穫作業をした後、夜は9時まで調製の作業をする毎日でした。」と当時を振り返ります。

● 私の今～就農後の道のり～

“農業”で伝わるもの

ネギの調製作業は手作業で丁寧に外葉を除き、2枚の本葉が残るように整えます。家族労働だけでは限界があるため、近隣市町村で調製作業を下請けしてくれる方々に外注(早朝に収穫したネギを、朝調製請け負い者に配布して、調製が終わったものを夕方回収)し、JAに出荷します。「多くの方の協力があってやっと一束の製品が出来上がるんですよ。」と大切にネギを取り扱います。

平成11年度には県から女性農村アドバイザーの認定を受けました。5年間の任期中に農業の知識や施策の勉強をさせてもらったと言います。研修会に参加したことで、多くの女性農業者と知り合い、情報交換ができ、農業の励みになったそうです。それまでは、ネギを生産するだけでしたが、農産物のことを伝えることの大切さを学びました。そこで「消費者の方にも生産者の努力を知ってもらいたい。多くの方にネギを食べていただきたい。」との思いから、野菜ソムリエや料理研究家の方を朝倉に招き、収穫体験交流会を開催しています。

● これからの夢、目標

後継者に農業を託し、 新たな取り組みに挑戦したい

「農業は後継者に移譲する時期になっているので、自分にできることを模索中です。」と語る羽野さん。朝倉地域で開催された「とれたてできたて あさくらの郷土料理コンテスト」では、博多万能ネギをふんだんに使った「博多万能ネギラー油」を出品し、みごと優秀賞を受賞しました。「博多万能ネギラー油」はJA筑前あさくらの加工品として商品化され、JA筑前あさくらのHPや近隣の直売所で販売されることになりました。「ネギだけでなく朝倉の農業の振興につながる事が何かできれば」と今後の活動が期待されます。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、夫、子2人、長男の妻、孫2人
- 営農年数 / 約33年 ■ 耕作(経営)面積 / 1.23ha
- 販路 / JA共販

就農を考えている女性へ ♡

農業は大変ですが、自分自身や家族、時代にあった農業のやり方を見つけることが大切です。週に一回は農業以外の時間を確保し、趣味や友達作りをすることで、農業を職業として楽しんで働きましょう。